

武雄市の文化財

今回は、武雄市内にある指定文化財のうち、工芸品について紹介します。指定をうけている工芸品として、市指定が14件あります。この中から、特に「大砲」を取り上げて説明します。

「大砲」は昭和45年に3門、昭和63年に1門の計4門が武雄市重要文化財に指定されています。武雄における大砲の歴史は、天保3年(1832年)武雄領主鍋島茂義が家臣平山醇左衛門を、長崎の西洋砲術家高島秋帆に入門させたことに始まります。のちに茂義自身も入門し、大砲製造に努力しました。この努力が佐賀藩にも認められ、天保11年(1840年)には神埼の岩田で試射に成功しました。



モルチール砲

「モルチール砲」は、全長59・5cm、口径20cm、重量270kg、上面にオランダ語、下面に漢文の銘があり、銀製の武雄鍋島家の家紋が上面にはめ込まれています。銘文から高島秋帆が天保6年(1835年)に日本で最初に製造した

洋式大砲であることが分かります。

「モルチール試薬砲」は、全長37cm、口径18cm、重量136・6kgで青銅製の弾をくわえこんでいます。火薬の良否を試すための大砲です。

「ボンベン野戦砲」は、全長133cm、口径7cm、重量185・2kg、腔綫が5条あり、火口に「三番」の刻銘があります。

「ナポレオン式四斤野砲」は、全長160cm、口径8・7cm、重量275kg、腔綫が6条あり、飛距離は射角30度で4km程です。

これらの大砲、特にモルチール砲が武雄にあることの意義は大きく、当時の人々の近代科学への進取の姿勢が読み取れます。



ボンベン野戦砲



ナポレオン式四斤野砲

Takeo-city Library & Historical Museum information

武雄市図書館

歴史資料館だより

蘭学館ミニ企画展

「平成19年度新収蔵品展」

武雄市図書館・

歴史資料館では展示資料の充実を図るため、武雄に関するもの、また、蘭学に関わるものを中心に新たな資料の収集を進めています。今回はそうした資料の中から、平成18年度に購入した資料を展示します。



騎兵体歩兵体散兵大調練之図

観覧料

無料

会場

蘭学館ミニ展示コーナー

休館日

毎週月曜日(ただし7月16日は開館)
7月17日(火)、19日(木)

会期

6月22日(金)～8月15日(水)

人の動き



総人口 52,123人
男 24,678人
女 27,445人
世帯数 16,841世帯

武雄町	15,998人(+99)	東川登町	2,651人(-53)
橘町	2,841人(-12)	西川登町	2,212人(-31)
朝日町	5,670人(-33)	山内町	9,574人(-13)
若木町	1,991人(-22)	北方町	8,467人(-121)
武内町	2,719人(-37)		()は平成18年5月末日との増減



平成19年5月末日現在